

第4回 東海北陸HLA研究会

プログラム

日 時 : 2021年7月24日(土) 13時00分～

会 場 : ZoomによるWeb開催

当番世話人 : 西川 晃平 (三重大学医学部 医学系研究科 腎泌尿器外科学)

研究会事務局 : 三重大学医学部 医学系研究科 腎泌尿器外科学 内

ご挨拶

この度、第4回東海北陸 HLA 研究会を開催させていただくこととなりました。

本研究会の歴史は、2016年に本研究会のさきがけとなる、東海北陸 HLA セミナー(第ゼロ回東海北陸 HLA 研究会)が開催されたところから始まりました。その翌年からは毎年、東海北陸 HLA 研究会が開かれ、この地域の移植医療の発展に大きな役割を果たしてきました。

本来は、第4回大会は2020年7月に開催予定でしたが、コロナウイルスの全世界的流行の影響で中止となり、一年越しの開催となりました。春先よりコロナウイルスに対するワクチン接種も始まり、少し明るい兆しが見えてきたとはいえ、感染状況は未だ予断を許さない状況ですので、皆様の安全を考慮し完全 Web での開催とさせていただきます。

近年、臓器移植領域におきましては、2019年12月に高ドナー抗体陽性腎移植に対する IVIG 療法が、2020年4月には移植前抗 HLA 抗体検査が保険収載されました。ますます、組織適合性検査の重要性が高まっておりますが、まだ適応や方法については様々な議論があるところとは思いますが、今回は「抗 HLA 抗体の意義と治療戦略」というテーマでシンポジウムを企画させていただきました。ここでは各領域における抗 HLA 抗体のとらえ方や治療戦略の違いについて議論を深めていければと考えております。また、今回は東京女子医大病院 移植管理科教授 石田英樹先生をお招きし、東京女子医科大学での抗 HLA 抗体陽性患者に対する脱感作治療の実際についてご講演をいただきます。本研究会は造血幹細胞・臓器移植・検査・基礎の先生方が一同に会して組織適合性検査についての議論を行える場は全国的に見ても珍しく、貴重な研究会であると自負しております。今回も分野を超えて、様々な角度からの議論が行える会とさせていただきたいと考えております。

本研究会が移植医療に関わる皆様の一助となることを祈念し挨拶とさせていただきます。

第4回東海北陸 HLA 研究会

当番世話人 西川 晃平

三重大学医学部医学系研究科 腎泌尿器外科学

三重大学附属病院 臓器移植センター

参加の先生方へのご案内

本会は、Zoom での Web での開催となります。

下記のアドレスから、入室ください。

会の参加は Zoom の参加記録から確認させていただきますので、入室時には名前を「参加者のフルネーム + 施設名」にご変更をお願いします(例:三重大太郎 三重大学腎泌尿器外科)。尚、一旦会場から退出されますと、名前が元に戻ってしまいますので、入場毎に名前の変更をお願いいたします。

東海北陸 HLA 研究会 本会場:

<https://zoom.us/j/93179729915>

ミーティング ID: 931 7972 9915

パスコード: 204563

※ 抄録をご希望の方は、下記のメールアドレスまでご連絡ください。

PDF の抄録をお送りいたします。

ご不明な点がございましたら、担当西川までご連絡ください。

E-Mail: kouheini@med.mie-u.ac.jp

プログラム

12:30～ 世話人会（会場：ZOOM）

13:00～ 開会の辞

開会の辞 西川晃平（三重大学医学部 腎泌尿器外科）

事務局報告 小林孝彰（愛知医科大学医学部 腎移植外科）

13:00～13:50 一般演題 1

座長：座長：高見昭良（愛知医科大学 血液内科）

水野修吾（三重大学 肝胆膵・移植外科）

O-1 従兄弟からの HLA 半合致末梢血幹細胞移植の一例

西村廣明¹、伊野和子¹、大石晃嗣²、俵功³

三重大学医学部附属病院 血液内科¹、三重大学医学部附属病院 輸血・細胞治療部²

三重大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学³

O-2 臍帯血移植後の一次生着不全に対して HLA 半合致移植を実施し生着が得られた2例

武田健一郎、内藤知希、石際康平、土門洋祐、一木朝絵、川口裕佳、江口基紀、大引真理恵
後藤辰徳、森下喬允、小澤幸泰、西田徹也

名古屋第一赤十字病院 血液内科

O-3 ゲノム編集をもちいた FLT3-ITD 変異白血病の新規治療標的の探索

花村一朗¹、シバスングラン・カルナン²、太田明伸²、高杉壮一¹、中村文乃¹、高橋美裕希¹
内野かおり¹、村上五月¹、水野昌平¹、鈴木進³、上田龍三³、高見昭良¹

愛知医科大学 血液内科¹、愛知医科大学 生化学²、愛知医科大学 腫瘍免疫³

O-4 術前 HLA 抗体検査で予測できなかった夫婦間生体腎移植後促進急性(抗体関連型)拒絶反応の一例

愛知医科大学 外科学講座 腎移植外科¹、愛知医科大学 腎疾患・移植免疫学寄附講座²

奥村真衣¹、安次嶺聡¹、石山宏平¹、三輪祐子²、岩崎研太²、小林孝彰^{1,2}

O-5 In silico 解析を用いた移植前ドナー応答性既存記憶 CD4 陽性 T 細胞診断

友杉俊英¹、岩崎研太²、坂本慎太郎³、小笠大起¹、木下航平¹、大原希代美¹、寺下真帆¹

二村健太¹、岡田学¹、平光高久¹、後藤憲彦¹、鳴海俊治¹、渡井至彦¹、小林孝彰⁴

名古屋第二赤十字病院 移植内科・移植外科・内分泌外科¹、愛知医科大学 腎疾患・移植免疫学寄附講座²、名古屋第二赤十字病院 医療技術部臨床検査科³、愛知医科大学 腎移植外科⁴

座長：大石晃嗣（三重大学医学部 輸血・細胞療法部）

渡井至彦（名古屋第二赤十字病院 移植外科）

O-6 同種造血幹細胞移植後生着不全に対する HLA 不適合臍帯血移植の治療成績

小原史也、根岸修人、茂木健太、若林浩也、横田裕史、澤ひとみ、宮尾康太郎

稲垣裕一郎、澤正史

安城更生病院 血液・腫瘍内科

O-7 一次生着不全に対して 1-day regimen による救援臍帯血移植が奏効した2例

鵜飼俊、沼田将弥、飯田しおり、伊藤真、河村優磨、後藤実世、福島庸晃、河野彰夫、尾関和貴

JA 愛知厚生連江南厚生病院 血液・腫瘍内科

O-8 血漿交換、Rituximab、免疫グロブリン大量療法による脱感作を行った
フローサイトメトリッククロスマッチ陽性生体腎移植の4例

佐々木豪¹、加藤桃子¹、東真一郎¹、舩井覚¹、西川晃平¹、井上貴博¹

藤本美香²、小田圭子²、片山鑑²

三重大学医学部附属病院 腎泌尿器外科¹、三重大学医学部附属病院 腎臓内科²

O-9 リンパ球クロスマッチにおけるプロナーゼ処理の検討

丸山美津子¹、坂倉立紀¹、西川晃平²、橋口裕樹³、松本剛史¹、大石晃嗣¹

三重大学医学部附属病院 輸血・細胞療法部¹

三重大学大学院医学系研究科 腎泌尿器外科学²、福岡赤十字病院 移植センター³

O-10 腎移植後に抗 HLA 抗体が検出された患者の移植腎機能について

藤田高史、石田昇平、舟橋康人、松川宜久、加藤真史

名古屋大学医学部附属病院 泌尿器科

座長: 村田誠 (名古屋大学 血液内科)
小林孝彰 (愛知医科大学医学部 腎移植外科)

S-1 (検査: 臓器移植)

抗 HLA 抗体検査の現状と展望

坂本慎太郎¹、深見晴恵¹、後藤憲彦²、鳴海俊治³、渡井至彦³

名古屋第二赤十字病院 医療技術部臨床検査科¹

名古屋第二赤十字病院 腎臓病総合医療センター 移植内科²

名古屋第二赤十字病院 腎臓病総合医療センター 移植外科³

S-2 (検査: 輸血・造血幹細胞移植)

東海北陸ブロック血液センターにおける組織適合性検査

(おもに PC-HLA 供給に係る抗 HLA 抗体および抗 HPA 抗体検査、臍帯血移植に係る抗 HLA 抗体検査)について

竹内 奈由美、金柁 麻衣、杉浦 良樹、高井 真一、毛利 啓子、NG JUNG YI、圓藤 ルリ子、竹尾 高明

日本赤十字社 東海北陸ブロック血液センター

S-3 (造血幹細胞移植)

造血幹細胞移植における HLA 抗体の臨床的意義

葉名尻 良

名古屋大学医学部附属病院 血液内科

S-4 (肝臓移植)

Rituximab 脱感作療法による既存抗ドナー抗体陽性肝移植の治療戦略

雫真人^{1,2}、吉川潤一¹、倉田信彦¹、城原幹太¹、小倉靖弘¹

名古屋大学医学部附属病院 移植外科¹

名古屋大学大学院医学系研究科 移植・内分泌外科学講座²

S-5 (腎臓・膵臓移植)

当院における腎移植、膵移植症例の移植後抗 HLA 抗体および DSA 陽性率の比較

伊藤泰平、剣持敬、栗原啓、會田直弘

藤田医科大学 医学部 移植・再生医学

16:20~17:20 特別講演

座長：西川晃平（三重大学医学部 腎泌尿器外科）

抗 HLA 抗体陽性患者に対する脱感作治療の実際

石田 英樹（東京女子医科大学 移植管理科 泌尿器科 教授）

17:20~ 閉会の辞

閉会の辞 次期当番世話人